

# 県立 高校統廃合

2025年度  
実施計画

## 14校 → 6校へ

### 統廃合でなく、今こそ少人数学級を

県教育委員会は、3月17日、全日制県立高校125校のうち、2025年度には9校、2028年度には6校、計15校を削減し110校にする「県立高等学校教育改革第三次実施計画」を発表。

7月14日には、2025年度実施対象校14校を発表しました。

県教委は、普通科・総合学科で1学年6～8学級が望ましい規模として、それ以外を統合対象校としています。

一方的で機械的な数合わせのための統廃合で、高校に進学する生徒にとっては受験競争の激化と、遠距離通学も強いられることとなります。

公立高校の学級定員は、兵庫県が全国に先駆けて40人学級に踏み切り、1992年から全国ですすめられ30年が経過しました。一人ひとりを大切にする教育を行うには、過密過多であり、もっと教員を増やし、今こそ少人数学級にすべきです。

また、高校は地域になくてはならない拠点です。

県は、統廃合ありきの計画は撤回し、高校での30人学級を推進し、学校を存続させ、一人ひとりにきめ細やかな教育を行えるようにすべきです。



## ●2025年度の計画

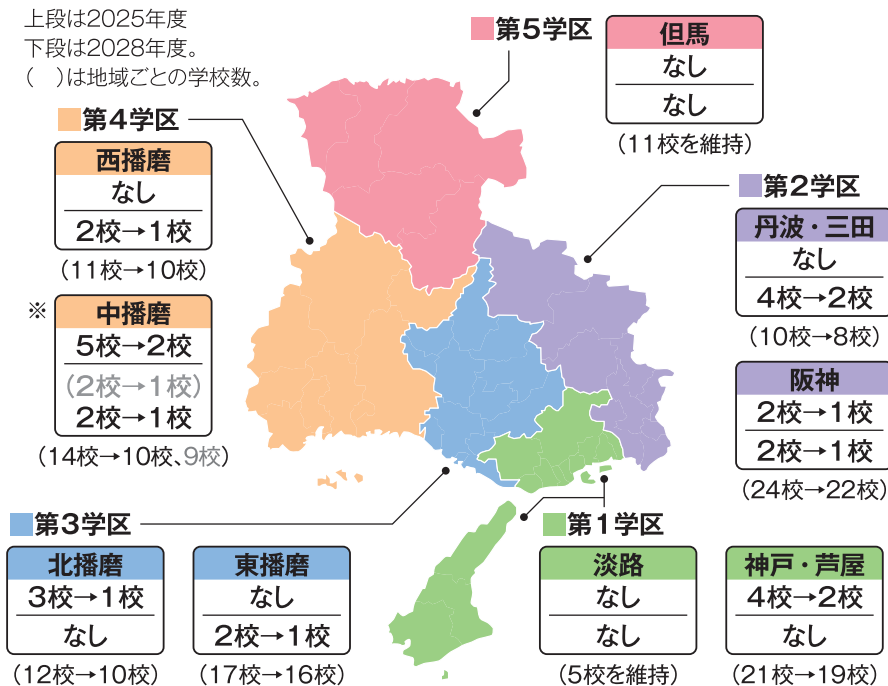
- 第1学区** 神戸・芦屋地域  
神戸北高校・神戸甲北高校 → 統合  
伊川谷高校・伊川谷北高校 → 統合
- 第2学区** 阪神地域  
西宮北高校・西宮甲山高校 → 統合
- 第3学区** 北播磨地域  
三木北高校・三木東高校・吉川高校 → 統合
- 第4学区** 中播磨地域  
姫路南高校・網干高校・家島高校 → 統合  
福崎高校・夢前高校 → 統合

## ●県立高校の統廃合計画(全体)

上段は2025年度

下段は2028年度。

( )は地域ごとの学校数。



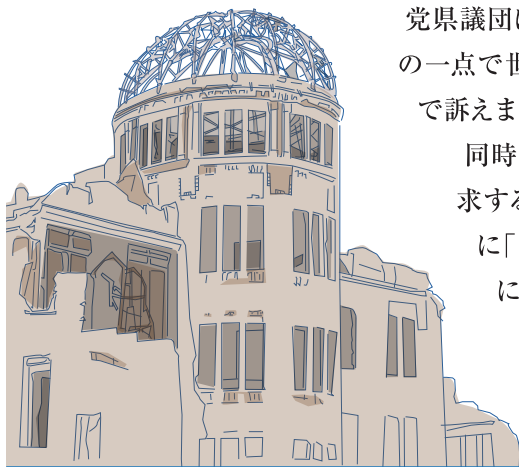
※第4学区(中播磨地域)の1組2校は、姫路市における市立高等学校の再編計画の検討状況を踏まえる必要があることから、2025年度の統合は実施せず、検討を継続。

ウクライナ緊急支援プロジェクトへの寄附金を活用した  
ウクライナ避難民の支援: 5,000万円

ウクライナ避難民等相談窓口(兵庫県国際交流協会)  
☎078-382-2052 (月～金 9:00～17:00)



## 憲法と核兵器



党県議団は、「ロシアはウクライナから撤退せよ」「国連憲章を守れ」この一点で世界が団結しロシアを包囲し、戦争を終わらせることを議会で訴えました。

同時に、県議会が2017年に「世界の恒久平和と核兵器廃絶を希求する兵庫県宣言」を全会一致で決議したことを示し、齋藤知事に「国連憲章の立場で憲法9条を生かすこと、核兵器禁止条約に参加することを日本政府に迫るべき」と求めました。

知事は「県民の総意として宣言の趣旨を重く受け止め、平和で安心な兵庫県を受け継いでいくため努力を重ねたい」と述べるにとどまりました。

### 6月議会 主な請願の内容

○…採択を主張 ×…不採択を主張

	共産	自民	自民兵庫	公明	維新	県民(立憲・国民)
日本政府に核兵器禁止条約への署名、批准を求める意見書	○	×	×	○	×	○
後期高齢者医療費窓口負担2割の撤回を求める意見書	○	×	×	×	×	○
特別支援学校統廃合計画を見直し、教育の充実を	○	○	○	○	○	○

意見書が **全会一致** で採択



学校給食の無償化を求める意見書



鉄道路線の維持・存続及び利便性向上に向けた国の積極的関与を求める意見書

## 但馬地域の特別支援学校の統廃合計画見直しを



請願者らと懇談する党県議団(6月1日)

豊岡聴覚特別支援学校と出石特別支援学校の統廃合計画は、保護者らの運動により、一年以上延期することが決まり、保護者や教員らも加わった検討委員会が立ち上がりました。

保護者らは、6月議会に、「特別支援学校統廃合計画を見直し、教育の充実を求める」請願を提出。全会一致で採択されました。

県教委は保護者らの願いに応え、寄宿舎を残す、高等部を整備する、出石特別支援学校の抜本的整備を行うなど、但馬地域の特別支援教育の充実を行うべきです。